

乾乳期は、これからの分娩や泌乳へ向けての大事な準備期間です。お産を控えた牛なので、大切に扱きましょう。

1 乾乳期の役割

(1) 乳腺細胞の増殖・再生

乳腺を休ませ、分娩後に向けて乳腺の再生促進を図ります。

(2) 肝機能の回復

泌乳期は濃厚飼料多給で肝臓を痛めているので、回復期間が必要です。

(3) ボディコンディションの維持

少々肉がついてもそのまま推移させます（けっして太らせない！ 痩せさせない！）。

(4) 乳房炎予防と治療

乳房炎の新規感染を予防し、乾乳期治療も行います。

(5) ルーメン壁の容積の維持と粘膜の治療

粗飼料優先の飼料給与を基本とします。

(6) 新飼料へのならし

乾乳後期では、分娩後給与する飼料にならします。



図1 乾乳期の役割

2 乾乳期間

乾乳期間は分娩予定前の60日間で、乾乳前期と乾乳後期に分けるという考え方が一般的です。

表1 乾乳期間の区分と管理

区分	期間	意味	備考
乾乳前期	分娩2ヶ月～3週間前	乳腺を休ませる、胎児の成長期	カルシウム等給与
乾乳後期	分娩3週間前	分娩・泌乳に備え、栄養バランスを整え、ルーメンを活発にさせる	分娩後給与する飼料のならし給与を行う



広げてもらうと
食べやすい！

写真1
ロールバールを広げて給与

3 乾乳方法

乾乳方法には、搾乳回数を徐々に減らしていく「間欠乾乳方法」と、一発で搾乳をやめる「急速乾乳方法」があります。この時の注意点は以下の通りです。

- ・搾乳刺激から遠ざける（ミルカーの音等で漏乳のリスクが高まる）
- ・乳房炎の確認：治癒の確認後、乾乳軟膏を注入
- ・乾乳後の経過の確認：4～5日後、乳頭表面にしわが増え、乳房がしぼんでいるか

乾乳方法の手順

- ① アルコール綿で乳頭口を拭き取る（挿入時に細菌を一緒に入れないために）
- ② 乾乳軟膏の先端を浅く（3mm以内）乳頭内に挿入し注入する
- ③ 直ちにディッピングするか、シールド剤などで乳頭を覆う

4 乾物摂取量を低下させないための飼養管理

胎児は乾乳期間に生時体重の3分の2を獲得すると言われています。だんだん大きくなる胎児によってルーメンが圧迫され採食量が減ってきます。この時期にいかに採食量を維持するかが、分娩後の調子を左右します。

つなぎ飼いで、フリーストールでも大切なのは、以下の3点です。

- ・良質な粗飼料が主体で、飽食できる環境
- ・障害なくいつでも快適に休息できる環境
- ・衛生的で乾燥した環境



写真2 ゆったりとした飼養環境

5 分娩兆候

分娩予定日が近づいてきたら、注意深く観察が必要になります。予定日より早く生まれたり、遅れたりすることもあるので、次のような分娩兆候を見逃さないようにしましょう。

<分娩兆候>

- ・乳房が張ってくる（乳房が赤みを帯び、乳頭のしわが消える。漏乳する場合もある）
- ・尾根部分が陥没してくる（骨盤靭帯の弛緩 写真3）
- ・外陰部がゆるむ
- ・寝起きを繰り返すなど落ち着きがなくなる
- ・体温が下がる（分娩1～2日前には39℃を切る傾向があるので、体温計で計測するのも良いでしょう）
- ・排尿の回数がふえる
- ・当日にエサ食いがかなり落ちることが多い

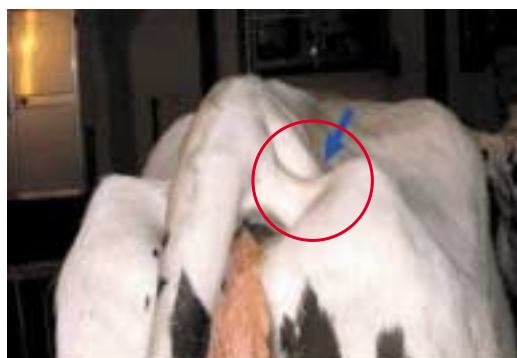


写真3 尾根部分の陥没の様子
(写真十勝NOSA I 提供)